

## 第12回効果を上げる理学療法技術としての義肢装具療法を考えるフォーラム開催に寄せて

ご挨拶



大会長 中野 克己  
日本保健医療大学

この度、第12回効果をあげる理学療法技術としての義肢装具療法を考えるフォーラムを開催させていただくこととなりました。一般社団法人日本支援工学理学療法学会は、障害者や高齢者のQOL向上を目指し、義肢装具や車いす等の福祉用具を用いた臨床研究、EBMの構築、住環境整備、ロボティクス技術を用いた理学療法の推進や横断的研究活動等に取り組むことを目的として活動している学術団体です。

本フォーラムは、第1回目を2018年3月に開催して以来、新型コロナウイルス感染拡大による開催中止時期を経ながら今回で第12回目を迎え、順天堂大学を会場に对面形式にて開催されることになりました。教育講演1では、湘南医療大学の大村優慈先生より、脳卒中装具療法に役立つ脳画像の読み方、教育講演2では、(公財)鉄道弘済会義肢装具サポートセンターより、下肢切断に対する理学療法～明日から役立つ実践紹介～をお話して頂きます。どちらの講演も医療従事者が直面する日常の課題への具体的な解決策を提供するものと確信しています。特別企画では、義肢装具を生活の中でより良く使うための工夫として、岩波君代先生からは義肢装具ユーザーが外出したくなる「おしゃれな装い」への挑戦、右田正澄先生からは片麻痺者の下肢装具「装着」練習の重要性と工夫、川口司先生からは下肢切断者の義足ソケット装着と適合調整の工夫についてご講演して頂きます。さらに今回は、「エキスパートによる症例報告会」を企画しました。装具からは高橋忠志先生、林翔太先生、義肢からは山本一樹先生、今井大樹先生と第一線でご活躍の先生方にベテランならではの貴重な経験をご発表頂く予定です。

本フォーラムが、障害を抱えた方々に対する理学療法技術の一環としてお役に立てれば幸いです。